

令和6年教育委員会 第6回定例会

1 日 時 令和6年6月27日(木) 13時30分開会 14時32分閉会

2 場 所 教育委員会庁舎1階 第1会議室

3 出席委員	教育長	中 島 正 人
	教育委員	小 澤 倭文夫
	教育委員	常 見 幸 司
	教育委員	黒 田 仁 美
	教育委員	吉 田 敬 徳

4 欠席委員 なし

5 出席職員	教育部長	鈴 木 健 介
	教育部次長	野 呂 武 志
	学校教育支援室主幹(教育課程・研修担当)	菊 野 幸 治
	学校教育支援室主幹(学務担当)	南 昭 一
	生涯学習課長	山 澤 亮 司
	教育部主幹(新総合体育館整備担当)	近 藤 玲 司
	生涯スポーツ課長	永 井 良 暁
	図書館副館長	海 藤 久仁子
	美術館副館長	久 保 壽 史
	教育総務課長	佐々木 雅 一
	教育総務課総務係長	深 田 友 和
	教育総務課総務係	藤 原 博 貴

6 傍 聴 人 なし

7 議 題

議案第1号 市立小樽図書館協議会委員の任命案

議案第2号 市立小樽美術館協議会委員の任命案

議案第3号 小樽市社会教育委員の委嘱案

議案第4号 小樽市スポーツ推進審議会委員の委嘱案

議案第5号 学校職員の訓戒について

報告第1号 第36回おたる運河ロードレース大会の開催結果について

報告第2号 小樽市文化芸術審議会委員の委嘱について

- 報告第3号 第52回小樽市民大学講座について
報告第4号 令和7年度使用小樽市中学校用教科用図書調査委員会における教科用図書調査研究の観点について
報告第5号 公立高等学校配置計画案（令和7年度（2025年度）～9年度（2027年度））及び令和7年度（2025年度）公立特別支援学校配置計画案について
報告第6号 新総合体育館整備事業について
その他 寄附採納について

8 議 事

教育長 ただ今から、教育委員会第6回定例会を開会いたします。
会議規則第4条の2第1項により、小澤委員及び吉田委員がオンライン会議システム等により会議に出席することを許可します。
本日の会議の議事録署名委員に、黒田仁美委員を指名させていただきます。
はじめに、お諮りいたします。
「議案第5号 学校職員の訓戒について」は、会議規則第13条第1項第2号により、「報告第6号 新総合体育館整備事業について」は、同項第5号により、非公開とし、議事録については結果のみ記載することとし、最後に審議していただきたいと思います。よろしいでしょうか。

各委員 （異議なし）

教育長 では、そのように進めさせていただきます。
それでは、「議案第1号 市立小樽図書館協議会委員の任命案」の説明をお願いします。

議案第1号 市立小樽図書館協議会委員の任命案

図書館副館長 「議案第1号 市立小樽図書館協議会委員の任命案」について、御説明いたします。
この議案を提出いたしましたのは、資料にございます市立小樽図書館条例第7条の規定により設置しております図書館協議会委員のうち、1名の委員に交代がありましたので、この後任を任命するためであります。
別紙資料につきましては、新委員及び旧委員の一覧になっており、交代する委員を太字で表記しております。
交代する委員であります、北海道新聞社小樽支社長・太田智子氏が、6月24日付け人事異動により退任届の御提出をいただきましたので、その後任として新しく小樽支社長になりました荒山和明氏を委員に任命したいと考えております。
なお、任期は、前任者の残任期間である令和7年7月25日までとなります。
以上、本任命案につきまして、御審議のほどよろしくお願いいたします。

教育長 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

各委員 (なし)

教育長 それでは、本件を終了させていただきます。
続きまして、「議案第2号 市立小樽美術館協議会委員の任命案」の説明をお願いします。

議案第2号 市立小樽美術館協議会委員の任命案

美術館副館長 「議案第2号 市立小樽美術館協議会委員の任命案」について、御説明いたします。

この議案を提出いたしましたのは、4ページ目に記載しています博物館法第20条の規定に基づき、市立小樽美術館条例第16条の規定により設置しております、美術館協議会委員10名のうち、1名の委員に交代がありましたので、この後任を任命するためであります。

2ページ目が新委員の一覧表、3ページ目が旧委員の一覧表になっており、交代する委員を太字で表記しております。

交代する委員についてですが、学識経験者であります北海道新聞小樽支社長の太田智子委員が人事異動により辞任願の届出があったことから、後任として、北海道新聞小樽支社長・荒山和明氏を委員に任命したいと考えております。

なお、任期は、前任者の残任期間である令和7年10月31日までとなります。

以上、御審議のほどよろしく願いいたします。

教育長 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

各委員 (なし)

教育長 それでは、本件を終了させていただきます。
続きまして、「議案第3号 小樽市社会教育委員の委嘱案」の説明をお願いします。

議案第3号 小樽市社会教育委員の委嘱案

生涯学習課長 「議案第3号 小樽市社会教育委員の委嘱案」について、御説明いたします。

この議案を提出いたしましたのは、社会教育法第15条の規定により設置しております、社会教育委員12名のうち、1名の委員に交代がありましたので、この後任を委嘱するためであります。

資料の2ページ目が新委員の一覧表、3ページ目が旧委員の一覧表になっており、交代する委員を太字で表記しております。

交代する委員であります、学識経験者の北海道新聞社小樽支社の人事異動により、太田智子氏から委員辞任の申し出がありました。

後任として、北海道新聞社小樽支社の新支社長である荒山和明氏が推薦されたことから、

委嘱を提案するものです。

なお、補欠の委員のため、任期は前任者の残任期間である令和6年10月3日までとなっております。

以上、御審議のほど、よろしくお願いいたします。

教育長 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

各委員 (なし)

教育長 よろしいでしょうか。

それでは、本件を終了させていただきます。

続きまして、「議案第4号 小樽市スポーツ推進審議会委員の委嘱案」の説明をお願いします。

議案第4号 小樽市スポーツ推進審議会委員の委嘱案

生涯スポーツ課長 「議案第4号 小樽市スポーツ推進審議会委員の委嘱案」について御説明いたします。

この議案を提出いたしましたのは、小樽市スポーツ推進審議会委員の任期が令和6年7月17日で満了となることから、新たに委員を委嘱するためであります。

資料2枚目を御覧ください。

8名のうち、再任の承諾を得ている方が7名、新たに承諾を得た方は、高体連小樽支部から小樽未来創造高等学校の渡邊裕之氏であります。

委員を委嘱するにあたり、小樽市スポーツ推進審議会条例第3条の規定にもとづき、市長の意見を徴し、同意を得ているものであります。

なお、任期は令和6年7月18日から令和8年7月17日までとなっております。

以上、御審議のほどよろしくお願いいたします。

教育長 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

各委員 (なし)

教育長 それでは、本件を終了させていただきます。

続きまして、「報告第1号 第36回おたる運河ロードレース大会の開催結果について」の説明をお願いします。

報告第1号 第36回おたる運河ロードレース大会の開催結果について

生涯スポーツ課長 「報告第1号 第36回おたる運河ロードレース大会の開催結果について」報告

いたします。

去る6月16日に第36回おたる運河ロードレース大会が開催されました。

当日は、教育委員の皆様には、朝早くから御臨席を賜りまして、誠にありがとうございました。

今大会は10kmスタート位置の変更、それに伴う交通規制時間の変更などありましたが、無事に終了することができました。

お手元の資料では、本大会につきまして、申込状況、完走者数の状況等を種目別に記載しております。

まず、報告第1号①の開催結果をご覧ください。

申込者数は合計で1,866名と前回大会の申込者数1,427名と比較しますと、439名の増加となっております。

当日の完走者は1,707名、完走率は申込比で91.5%となっております。前回の完走者は1,327名、完走率は申込比で93.0%であり、昨年よりもポイントが低くなっておりますが、これは悪天候の予報などにより、申込みをしたものの参加されなかった方が多かったのではないかと考えております。

中段には、当日の天候の状況を記載しておりますので御覧ください。

当日の朝方、レース開始の9時頃は曇りでしたが、その後、雷雨が強くなりました。

気温は22.0℃前後であり、湿度も高く、風速も弱かったため、昨年と比べますとランナーにとっては暑かったものと思われれます。

そのため、コース上で2名、救護テントに運ばれた方1名、計3名のランナーが救急車で搬送されており、いずれも脱水症とのことでした。3名の方は点滴などの治療を受け、当日には帰宅していることを確認しております。

他には大きな事故等については報告されておりません。

下段には、地区別参加申込状況につきまして、記載しておりますので御覧ください。

小樽市民の参加は昨年に比べ99名増加し681名で36.5%、札幌市からの参加につきましては、昨年に比べ244名増加し853名で45.7%となっております。

小樽、札幌以外の道内からの参加は261名で14.0%、道外からの参加は71名で3.8%となっております。前回大会と比べ、全体的に参加者数が増加しております。

これにつきましては、昨年同日に、北広島市で開催されたFビレッジハーフマラソンが、今回は別日での開催になったこと、また、市内、札幌圏へのポスター掲示や要項の配布など、より積極的に広報を行った結果だと思われれます。

次に、報告第1号②の競技結果を御覧ください。

年齢・性別で分類した18部門の3位までの入賞者を記載しており、5km女子中学校の部では、西陵中学校の石川さんが2年連続の優勝です。

2km男子の部では、高島小学校の小嶋さんが優勝したところであります。

その他の結果につきましては、後ほどゆっくり御覧いただければと存じます。

次に、報告第1号③、④、⑤を御覧ください。

前回大会から開催いたしました、「勝手にランキング戦」の結果になります。

③が所属団体部門になります。

エントリー数が11団体、昨年より2団体増えました。

1位がエスケーラインで、上位3名の平均タイムが43分52秒です。

次に、④がファミリー部門になります。

10kmには16ファミリー、5kmには7ファミリーのエントリーがありまして、上位3組のファミリーには、副賞として「さくらんぼ狩りペアご招待券」を進呈することにいたしました。

さくらんぼ狩りは仁木町の「にきや」になります。

ちなみに昨年は各1位のみで、小樽海上観光船のペア乗船券でした。

次に、⑤が学校対抗部門になります。

5名以上の参加者がいる学校を対象としておりまして、対象全学校の順位を掲載しております。

学校ごとの上位3名の平均タイムで順位付けをしております。

前回大会では全児童生徒の平均タイムで順位付けをしておりましたが、先ほどの②競技結果表で上位にランキングしている児童生徒との兼ね合いもあり、今大会から上位3名の平均タイムに変更いたしました。

最後になりますが、今大会はレース途中からの雷雨により表彰式中止とし、入賞者には郵送にて賞状、メダルを送付する形をとりました。

例年、教育委員の皆様にはプレゼンターをお勤めいただいておりますが、今大会はお出番がなく申し訳ありませんでした。

また、今大会は小樽観光や次回大会の参加者数の確保になるよう、前大会と同じく観光パンフレットの配布を行うとともに、市内事業者様の御協力により、参加者全員に湯の花の割引入浴券、オタルボウル無料券の配布を行うとともに、抽選になりますが、新たに、ニトリ美術館の入館券、天狗山ロープウェイペア券、イオンシネマ無料鑑賞券、ウイングベイ小樽内にある「華花」お食事割引券、などを景品として提供いたしました。

なお、昨年に引き続き、学校の協力を得て、参加資格のある小学校3年生以上の児童生徒全員に、大会チラシを配布してもらうなどの取り組みを実施したところであります。

その結果、市内小中学校の参加者数は前回大会より、70名増加したものであります。

今後、景品受渡所の混雑など、今大会の反省点等について集約、取りまとめを行い、実行委員会を開催して、次回大会に向けて協議していくこととしております。

報告は、以上であります。

教育長 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

黒田委員 ロードレース、お疲れ様でした。

去年と比べて会場のレイアウトがすごく良くなったと思いました。

キッチンカーや飲食スペースが親子連れの親たちにすごく好評でしたし、今回のように雨が降ったときに皆あのテントに逃げ込めたので、一つ一つのものがすごく良くなっているように感じました。

それから、いくつか気付いた点をお伝えしたいのですが、2kmの子供たちがゴールした

後、5 kmと10 kmの方たちが走っているときにゴール付近で応援していたのですが、レースが終わった後の方たちが帰るために道路を横断する時に、まだ走っているランナーの方とぶつかってしまいそうになって、ランナーの方の足が止まってしまうということが見受けられたので、もし可能でしたらあの辺に誘導員の方がいると、ランナーの方の安全のために良いのかなと思います。

あとはそのゴール付近ですが、ランナーたちが走る道路が一車線で、途中からもう一車線、車が通れるようになっていましたが、あの時って一方通行ですよ。

生涯スポーツ課長 そうです。

黒田委員 私もそう思っていたのですが、逆走している車を3、4台見まして、ランナーと逆の方向に走っていくという状況でした。

誘導員がいないせいか自分勝手なことをしている方がいて、危ないなと思いましたので、来年以降の課題に繋げていただければと思いました。

あとはゴール付近で応援していると、皆さん雨に降られながらも清々しい顔で帰って来ていましたので、なかなか大変だったと思うのですが、すごく良い思い出になったのではないかと思いますので、皆さん本当にお疲れ様でした。

教育長 ありがとうございます。
今の2点について課長から何かありますか。

生涯スポーツ課長 ゴール付近の誘導員についてなのですが、あそこはゴールする選手を励ますために高校生のボランティアを多く配置しておりまして、実際に警備員の誘導の方の配置が少なかったという事実がありますので、次回大会は高校生の応援ボランティアに加えて、市のボランティアと警備会社の誘導員を配置させていただいて、ランナーや通行人にお互いに怪我のないように改善していきたいと思います。

もう一点、あそこの道路は片側一車線交互交通で、祝津方面から札幌方面に抜けることはできるものの、逆の方は通行止めにはしていたのですが、委員が今おっしゃられたように逆走が3、4台あったとのことですので、規制エリアの端と端に警察官と警備員を配置しているのですが、中には警備員のいない小路の方から出てくる車がもしかしたらあったのかと思われるので、そうしたところにも警備員を配置するなどして、逆走はかなり危ないので、来年に向けて気を付けて配置していきたいと思います。

教育長 黒田委員、よろしいでしょうか。

黒田委員 はい、よろしくお願いします。

教育長 その他ございませんでしょうか。

小澤委員 黒田委員からお話のあったとおり、会場のレイアウトが工夫されていて大変すばらしいと思いました。

去年トラブルのあったスタート位置についても、非常に分かりやすく工夫されていてすばらしいなと思いました。

それからゴール近くのボランティアの高校生が、声がかれるくらい一生懸命応援されていて、運河ロードレースというのが小樽の心温まる風景の一つかなと思って見させてもらいました。

いろいろな点で工夫されていることが、具体的に改善につながっていることが、大変すばらしいと思いました。

最後に天候に関わることですが、表彰式は中止となりましたが、あの時点で中止にするのは妥当な判断だったと思いましたので、今後とも早めの判断が大事だと思いました。

生涯スポーツ課長 会場レイアウトにつきましては、今年度はコンパクトにして皆さんがくつろげるスペースを作りたいということと、休憩所として新たにテントを配置して雨や陽が当たらないようにしました。

キッチンカーについては、去年は道路沿いに配置したのですが、今年は会場内に入れた形で皆さんが楽しめるスペースを、ということ意識して配置いたしました。

また、ゴール近くの高校生のボランティアについては、ランネットの掲示板などには、参加された方から毎年「励まされた」などお褒めの言葉をいただいております。

今大会に関しても、最後にゴールされた80歳代の男性の方と高校生と手を繋いで横に並びながら一緒にゴールされた姿を見て、私も感動したところであります。

高校生のボランティアについては次回以降も参加をお願いして、華を添えていただきたいと考えております。

天候については雷雨がひどくなりまして、表彰式は中止させていただいたのですが、小澤委員のおっしゃるとおり、早め早めの判断が必要になりますので、レース自体は雷がかなりひどく、状況を見ながら中止も検討しながらも続けさせていただいたという形で、今回は事故なく終えることができたのですが、事故が起きては大変ですので、今後も早めの判断を心掛けて実施していきたいと考えております。

小澤委員 もう一つ、改善が必要な点として感じたことですが、来賓テントの横のところにそれぞれの記録が掲示されていましたが、それが画鋏一本で留められていたので風に煽られてしまい、皆さん写真に写そうとしても、丸まってしまって写せない状況だったのですよね。

なんとかできないかと思っていたら、後からスタッフにテープで留めていただきました。

やはり海辺ですので、四隅をきちんと留めていただけたら、記念に多くの方が撮っていたということもあるので、良いかと思いました。

生涯スポーツ課長 来年度に向けて、画鋏だけではなく、外側に差し込めるようなものを入れた上で、その中に記録書を差し込んで風などで飛ばないように形にし、かつ、写真に写しやすいよう見やすいように改善していきたいと思います。

教育長 小澤委員よろしいでしょうか。

小澤委員 はい。

教育長 その他ございませんでしょうか。

吉田委員 雨が降ったのは残念でしたが、非常に賑わいがあって素晴らしいイベントと感じました。参加者に注目したのですが、昨年よりも400人程増えているということで、昨年はFビレッジハーフマラソンがあったということで、参加者が少なくなっているということでしたが、これは毎年行われているものなのか、昨年だけだったのか、こういった大会になるのでしょうか。

生涯スポーツ課長 Fビレッジハーフマラソンは2023年、昨年度から開催された大会になります。

今までは北広島マラソンという形で開催されていたのですが、昨年度にFビレッジが開業したのに合わせて始まった大会で、今回で2年目の開催となります。

昨年度は初めての開催ということで、おそらくそちらの方に流れた方もいらっしゃると思うのですが、今年度は運河ロードレースとは別日程での開催となったということもあり、参加人数は増加という形になっております。

ちなみに、Fビレッジハーフマラソンは昨年5,000人弱の参加がありまして、今までの北広島マラソンの参加者は約1,500人でしたので、約3,500人の参加者の増加がありました。

今年度のFビレッジハーフマラソンの参加者は4,000人強と聞いております。

今大会はFビレッジハーフマラソンと重ならなかったということもありまして、運河ロードレースの方でも広報活動させていただいたんですが、札幌圏からFビレッジハーフマラソンの後日に、運河ロードレースに参加された方もいらっしゃるかと考えております。

吉田委員 ありがとうございます。

このFビレッジハーフマラソンと事前に調整した上で、来年以降別日程に設定するということは可能なのでしょうか。

昨年ぶつかってしまったというのが非常にもったいなく感じておりますので、もし可能であれば事前に調整した上で、他のマラソン大会や大きなイベントもそうですが、かぶらないような形で設定するということは可能なのでしょうか。

生涯スポーツ課長 来年度のFビレッジハーフマラソンの日程が決まるのが大体早くて11月から12月になると聞いておりますので、その日程を含め、運河ロードレースの日程調整をしっかり検討していきたいと考えております。

吉田委員 昨年400人増えたのが重なってしまっただけというだけだとしたら、非常にもったいな

いと思いますので、ぜひ別日程での開催ということを検討していただければと思います。

400人でもかなり経済効果は大きいのかなと思いますし、小樽の素晴らしい景観を感じていただく大きなチャンスだと思いますので、一人でも多くの方に参加していただけるよう今後も引き続き色々と工夫をしていただけたらと思います。

以上です。

教育部長 補足ですが、Fビレッジハーフマラソンについては、北広島に日本ハムさんが昨年球場をオープンしたというところで、冠名も付けて日本ハムさん主体で組まれたようなのです。

なぜ今年ぶつからなかったというところもはっきりと聞いてはいないのですが、通常道内で他都市が同じようにやる場合、日付を変えるときには、ぶつからないように互いに調整をしあっていたらしいのですが、昨年度はぶつかったというのが現状です。

小樽の場合は6月の第3日曜日にやるという経過がずっとあるのですが、なぜ今年ぶつからなかったかという、野球の開催日との関係があるのかなというふうに思っています。

なので、生涯スポーツ課長が申し上げた11月くらいというのは、今年のペナントレースが終わって来年度順位を見て、日程が組まれる頃で向こうがいつやるかという風な発表になる。

そうしたときに、小樽市との調整というよりも、小樽市が調整できるかという観点で議論させていただかなくちゃならないかなと。

そうすると函館も近辺にありますし、他の道内の状況を見て、近辺で調整ができるのか、まったく違う月という発想をしなくてはならないのか、ここはゼロベースですが十分念頭に置いて、来年度に向けての日程の調整を検討させていただければと思っております。

教育長 ただいま教育部長からの補足説明もございましたが、吉田委員いかがですか。

吉田委員 はい、分かりました。

無理なことを言って申し訳ありませんが、やはり一人でも多くの方に御参加いただきたいと思いでありましたので、意見をさせていただきました。

よろしくお願いいたします。

教育長 貴重な御意見ですので、最後までしっかり検討していきながら、より多くの参加者が得られるようにしていかなければならないと思います。

その他ございませんか。

各委員 (なし)

教育長 それでは、本件を終了させていただきます。

続きまして、「報告第2号 小樽市文化芸術審議会委員の委嘱について」の説明をお願いします。

報告第2号 小樽市文化芸術審議会委員の委嘱について

生涯学習課長 「報告第2号 小樽市文化芸術審議会委員の委嘱について」御説明いたします。

小樽市文化芸術審議会委員については、小樽市文化芸術振興条例第19条の規定により、市長の附属機関として設置しております。

現委員は本年6月30日をもって任期が満了となり、新たな委員については、令和6年7月1日から令和8年6月30日までの2年間、委員を委嘱いたします。

資料の1ページ目が新委員の一覧表、2ページ目が旧委員の一覧表になっており、交代する委員を太字で表記しております。

委員の委嘱においては、まず学識経験者につきましては、関係機関から推薦をいただいておりますが、交代する委員については、小樽市校長会からの推薦である、事務局長の脇本麻友美氏が今回新任となり、その他は再任となりました。

また、市民公募委員につきましては、公募の結果、選考の対象となる応募者がいなかったことから、小樽まちづくりエントリー制度、これは無作為抽出された市民のうち審議会等への参加を希望する人を公募委員候補者として登録する制度なのですが、その候補者より、2名を選考いたしました。

以上、委員名簿の9名に小樽市文化芸術審議会委員を委嘱することを、御報告いたします。

教育長 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

各委員 (なし)

教育長 それでは、本件を終了させていただきます。

続きまして、「報告第3号 第52回小樽市民大学講座について」の説明をお願いします。

報告第3号 第52回小樽市民大学講座について

生涯学習課長 「報告第3号 第52回小樽市民大学講座について」御報告いたします。

資料を御覧ください。

小樽市民大学講座は、昭和48年度から市民の貴重な生涯学習の場として開催している事業で、令和6年度の講座が第52回となります。

今回お招きする5名の講師の方々ですが、9月1日(日)、直木賞作家の桜木柴乃さんの講座を皮切りに、9月20日(金)は、クリエイティブオフィスキューの代表取締役で、旧北海製罐第3倉庫の利活用を検討している、NPO法人OTARU CREATIVE PLUS 理事でもある伊藤亜由美さん、10月4日(金)は、外交ジャーナリストで作家の手嶋龍一さん、10月7日(月)は、小樽商科大学副学長の片桐由喜さん、最後の10月25日(金)は、ジャズピアニストで作曲家の野瀬栄進さんに御講演をお願いしております。

講座の時間は、初回の9月1日(日)が午後1時30分から午後3時まで、それ以外は午

後6時30分から午後8時までとなっており、会場につきましては、10月25日の野瀬栄進さんの回のみ、ピアノ演奏も含めた形になるため小樽市民センターで、それ以外は小樽経済センターの7階ホールとなります。

また、資料の2ページ目になりますが、受講料は、全講座受講する場合は5,000円、1講座の受講は1,500円で、7月1日（月）から、申し込みの受付を開始いたします。

申込方法は、オンラインの専用フォーム、若しくはメール、はがき、電話など、色々な方法で申し込むことができるように進めており、受講料を直接持参して、受講券を購入する場合は生涯学習プラザと小樽市役所の地下売店で申し込みとなっております。

様々な分野で活躍される一流の講師の話を聞くことができる、またとない機会ですので、今年もお時間がありましたら、受講していただきますようお願いいたします。

御報告は以上であります。

教育長 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

各委員 (なし)

教育長 それでは、本件を終了させていただきます。

続きまして、「報告第4号 令和7年度使用小樽市中学校用教科用図書調査委員会における教科用図書調査研究の観点について」の説明をお願いします。

報告第4号 令和7年度使用小樽市中学校用教科用図書調査委員会における教科用図書調査研究の観点について

学校教育支援室主幹（教育課程・研修担当） 「報告第4号 令和7年度使用小樽市中学校用教科用図書調査委員会における教科用図書調査研究の観点について」御報告いたします。

令和7年度使用小樽市中学校用教科用図書調査委員会が調査研究するにあたっては、令和7年度使用小樽市中学校用教科用図書調査委員会「要領の3」により、北海道教育委員会が作成する採択参考資料を参考として行うこととしておりますので、これに基づき、資料1枚目のとおり調査研究の観点を定め、調査研究を行うことといたします。

まず、1枚目の表でございますが、令和7年度から使用する中学校用教科用図書調査研究の観点については、道教委から示された観点到小樽市教育委員会として「(3)印刷・製本」の観点を追加しております。

なお、外国語における学習者用デジタル教科書の取扱いについてですが、道教委の採択参考資料には、「その他」の欄において、学習者用デジタル教科書の機能に係る記載がございます。

本市においても、これに基づき、調査研究の結果は、「その他」に記載することといたします。

次に、2枚目を御覧ください。

特別支援教育の小委員会が、特別支援学級で使用する一般図書を調査研究する観点ですが、

道教委の採択参考資料に示されている観点の中に、印刷、造本に関する観点が含まれておりますので、前回同様に、道教委の観点と全て同じ内容としております。

なお、その後ろには、参考までに道教委の観点を参考１、参考２として添付しております。

本調査委員会における調査報告は、７月１１日までとしており、内容を事務局で確認の上、７月１９日の本調査委員会第２回総会において答申、７月２５日の第７回定例会において、各小委員長から答申内容の説明という日程としております。

説明は以上であります。

教育長 本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

常見委員 確認だけなのですが、調査研究内容に関しては、前回の教科書採択基準と変わりはないということ間違いなかったでしょうか。

教育長 変わっていないですね。

学校教育支援室主幹（教育課程・研修担当） はい、変わっておりません。

教育長 それでは、その他ございませんでしょうか。

各委員 （なし）

教育長 それでは、本件を終了させていただきます。

続きまして、「報告第５号 公立高等学校配置計画案（令和７年度（２０２５年度）～９年度（２０２７年度））及び令和７年度（２０２５年度）公立特別支援学校配置計画案について」の説明をお願いします。

報告第５号 公立高等学校配置計画案（令和７年度（２０２５年度）～９年度（２０２７年度））及び 令和７年度（２０２５年度）公立特別支援学校配置計画案について
--

学校教育支援室主幹（学務担当） 「報告第５号 公立高等学校配置計画案（令和７年度（２０２５年度）～９年度（２０２７年度）及び令和７年度（２０２５年度）公立特別支援学校配置計画案について）御報告いたします。

これらは、今月４日に道教委が示したものです。

はじめに、公立高等学校配置計画案について御説明いたします。

まず、５ページから８ページは、４の配置計画案として、令和７年度から令和９年度の学校別内訳を示しております。

後志学区に関わる部分につきましては、６ページ中段以降ですが、（３）再編整備の②募集停止と（４）新設に記載がありますとおり、令和８年度に、定時制のニセコ高校が設置者であるニセコ町の決定により、農業科１学級の募集を停止し、総合学科２学級を新設いたしま

す。

続きまして、15ページ「後志学区高校配置計画案」を御覧ください。

先程、御説明しましたとおり、令和7年度から令和9年度までの後志学区では、令和8年度に、ニセコ高校が、農業科1学級の募集を停止し、総合学科2学級を新設するとの記載があります。

また、令和7年度に表示があります、倶知安については、今年の入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じたことから、今年度1学級減としており、令和7年度の募集学級数については、中卒者数の状況や生徒の進路動向等を精査し、昨年は9月でしたが、今年の計画決定時に公表されることとなっております。

計画案の15ページの表、上段には、後志学区内と小樽市内の中学校卒業生数の推計が示されており、令和10年度から13年度までの中卒者につきましては、令和9年度の卒業生数推計を基準といたしますと、後志学区内では161人、小樽市内では93人の減少が見込まれております。

このため、後志学区においては、「令和10年度から令和13年度までの見通し」の上から二つ目の丸印に記載のありますとおり、中卒者数や欠員の状況、学校・学科の配置状況を考慮し、小樽市内における定員調整の検討が必要と示されております。

定時制課程につきましては、同じく見通しの最後の丸印に記載されており、5月1日現在の第1学年の在籍者数が10人未満となるなど、小規模化していることから、生徒の進路動向を踏まえながら、今後の在り方について検討が必要と示されております。

昨年までは、第1学年の在籍者数が3年連続で10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない場合は、定時制課程の配置状況を見ながら、再編整備の検討が必要という記載でありました。

定時制課程は、市内に小樽潮陵と小樽未来創造の2校があり、今年の5月1日現在の入学者数を道教委に確認しましたところ、小樽潮陵が12名、未来創造が4名でありました。

小樽潮陵は、本年、未来創造は令和4年に10名を超えてはありますが、引き続き生徒の進路動向を注視していきたいと考えております。

次に、特別支援学校の配置計画案について御説明します。

「公立特別支援学校配置計画案」の3ページを御覧ください。

市内には、特別支援学校が2校あり、3ページの上から2番目の表にある高等聾学校、下段の表の下から2つ目にある小樽高等支援学校のいずれも、令和6年度と令和7年度の学級数・定員に増減がない計画案となっております。

また、7ページを御覧ください。

知的障害特別支援学校高等部の職業学科等の配置の今後の見通しとして、道央圏について令和8年度に8学級相当の確保を検討すること、さらに欄外注釈には、同じく道央圏については、さらに数年後、出願者数の増加が見込まれるため、既存施設等の活用による対応を検討するものと示されております。

報告は、以上でございます。

教育長

本件に関しまして、御質問・御意見等ございましたらお願いします。

各委員 (なし)

教育長 確認ですが、今年度の定時制の入学者数は、潮陵が12名、未来創造が4名だったということによろしいですか。

学校教育支援室主幹(学務担当) はい。

教育長 昨年度は、未来創造は10名ということでもいいですか。

学校教育支援室主幹(学務担当) 未来創造は昨年度も4名でした。
令和4年度が11名です。

教育長 令和4年度は10名を超えていたということですね。

学校教育支援室主幹(学務担当) 御説明させていただきますと、小樽潮陵高校の定時制について、定時制も一つの選択肢である旨、校長先生から今年度の卒業生に呼びかけをして、それが全ての原因という訳ではないですが、小樽から9名、その他の学区から3名と、12名という人数の増加があったという風に考えております。

教育長 入学者を増やすための高校の努力もあったということですね。
分かりました。
委員の皆様からは何かございますか。

各委員 (なし)

教育長 よろしいでしょうか。
それでは、本件を終了させていただきます。
続きまして、その他の報告で、「寄附採納について」の説明をお願いします。

その他 寄附採納について

教育総務課長 寄附が1件ありましたので、御報告いたします。
寄付者は志和裕様で、小樽市交通災害遺児奨学資金基金に2万円を御寄附いただきました。
志和様からは平成12年より御寄附をいただいております、先月に引き続き今回で49回目、総額は56万円となります。
報告は以上です。

教育長 何か御質問等ございますでしょうか。

各委員 (なし)

教育長 よろしいでしょうか。
それでは、本件を終了させていただきます。
ただ今から非公開の審議に入りますので、報道関係者及び傍聴者の皆様には御退席をお願いいたします。

<非公開の審議開始>

報告第6号 新総合体育館整備事業について

教育部主幹（新総合体育館整備担当）から、「新総合体育館整備事業について」説明し、常見委員から質問があったほか、全委員一致により了承した。

教育長 それでは、ただ今から人事案件の審議に入りますので、関係者以外の皆様は御退席をお願いします。

<部長／部次長／教育総務課長以外 退室>

議案第5号 学校職員の訓戒について

教育総務課長から、「学校職員の訓戒について」説明し、全委員一致により議決した。

<非公開の審議終了>

教育長 以上で、教育委員会第6回定例会を閉会いたします。